

コーポレートカルチャー論A		准教授 八木 孝幸	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目、会計ファイナン スコースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23220207 25320225

1. 授業のねらい・概要

企業に参加・構成する人々は、それぞれがそれぞれの感情や考え方を持った、生きている人間なのである。そういう人間が集まって形成される企業について研究しようという場合、単にハード的側面ばかりを追うだけでなく、企業の「ソフトな側面」についても充分研究する必要がある。

人が集い、集団を形成するところには、必ず「カルチャー」が芽生えてくる。どの企業にも、「コーポレートカルチャー」というものは必ず存在している。人間と同様に、企業にも個性がある。企業の個性ともいべきもの、それが「コーポレートカルチャー」なのである。この講義はそんな企業の「ソフトな側面」すなわち「コーポレートカルチャー」にスポットを当て、研究して行こうというものである。

講義内容の詳細については「授業計画」の項にゆずるが、前期は主にコーポレートカルチャーの「定義」と「理論の歴史的潮流」について講義を行う予定である。

2. 授業の進め方

テキストは用いず、板書を中心に講義を行う予定である。資料の配布は適宜行う。

3. 授業計画

1. コーポレートカルチャーとは何か	10. 経営戦略との適合を主題にするコーポレートカルチャー論
2. コーポレートカルチャーの定義	11. 社員と社会を視野に組み入れたコーポレートカルチャー論
3. コーポレートカルチャーにおける「文化」の定義	12. 米国におけるエクセレント・カンパニー以降の理論的潮流
4. シンボリック・マネジャー	13. ビジヨナリー・カンパニーとは何か
5. エクセレント・カンパニー	14. ビジヨナリー・カンパニーの具体的要件と事例
6. マッキンゼーの7つのS	15. 本講義の総まとめ
7. エクセレント・カンパニーの事例	
8. エクセレント・カンパニーの8つの特質	
9. C I を推進する立場からのコーポレートカルチャー論	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義計画を参考に、次回講義までに参考文献などを読んで2時間以上の予習をしておくことが望ましい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（あるいはレポート提出）の後、解答などを掲示板に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

コーポレートカルチャーについて理解を深めた上で、議論が行えることを目標としている。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（50%）及び授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。ただし、定期試験の結果が授業への取り組み姿勢の評価のいずれかが59点以下になった場合は、不可とする。

8. テキスト・参考文献

〈参考文献〉

- (1) J. P. コッター・J. L. ヘスケット, 梅津祐良訳『企業文化が高業績を生む——競争を勝ち抜く「先見のリーダーシップ」』ダイヤモンド社, 1994年。
- (2) T. E. ディール・A. A. ケネディー, 城山三郎訳『シンボリック・マネジャー』岩波書店, 1997年。
- (3) T. ピーターズ・R. ウォータマン, 大前研一訳『エクセレント・カンパニー』英治出版, 2003年。

9. 受講上の留意事項

本講義の履修に関して特に制限はないが、『経営学基礎』の単位が取得済みであることが望ましい。なお、座席表作成の都合上、履修希望者は初回より必ず出席のこと。